

論文審査の要旨
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 (学 術)	氏名 Author	唐 彬
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation 中国語を母語とする日本語学習者における接続詞の誤用に関する研究 — 「添加型」を中心に—			
論文審査担当者 Dissertation Committee Member 主 査 Committee Chair 広島大学大学院国際協力研究科 教授 佐藤 暢治 印 Seal 審査委員 Committee 広島大学大学院国際協力研究科 教授 堀田 泰司 審査委員 Committee 広島大学大学院国際協力研究科 准教授 深見 兼孝 審査委員 Committee 広島大学大学院文学研究科 教授 高永 茂 審査委員 Committee 関西学院大学大学院 言語コミュニケーション文化研究科 教授 于 康			
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review 日本語の接続詞は類似した意味を持ち、それらが持つ意味によって細かく区別され使用されている。そのため、学習者が接続詞個々の意味を十分理解しないままに使用してしまうと、誤用が生じることがある。本論文はこうした問題意識から、「YUK タグ付き中国語母語話者の日本語学習者作文コーパス」Ver.8 (以下、「YUK コーパス」) を資料に、中国語を母語とする日本語学習者における「添加型の接続詞」(そして、また、それから等)の誤用実態に焦点をあて、誤用の規則性を明らかにすることを目的としている。 本論文は7章からなる。第1章は序論であり、研究の目的、意義、方法、資料および論文の構成が述べられている。第2章は接続詞に関する先行研究について述べ、学習者が産出したデータを用いた分析の重要性が論じられている。第3章は「YUK コーパス」から、まずは接続詞の誤用全体像を整理し、最も誤用が認められるのが「添加型の接続詞」であることを明らかにしている。その次に、誤用の類型として「不使用」と「過剰使用」と「混用」の三つがあること、そして「添加型の接続詞」の中でも「そして」と「また」には「不使用」と「過剰使用」と「混用」の誤用が、「それから」には「過剰使用」と「混用」の誤用が顕著に認められることを明らかにしている。第4章と第5章は、表裏の関係にある「添加型の接続詞」における「過剰使用」と「不使用」を論じている。文章と句読点の関係に注目し、誤用の規則性として、「そして」と「また」の場合、二つの文章が句点で分割されるとそれらの「不使用」が生じ、読点で文章が接続され、その前に動詞があれば「そして」が、動詞以外があれば「また」が過剰に使用されることを明らかにしている。第6章は「添加型の接続詞」の「混用」を論じ、二文間の論理関係から、そこに「区切り性」があれば「そして」、「連続性」があれば「それから」、「重なり」があれば「それから」、「きっかけ」があれば「また」の「混用」が生じるという規則性を明らかにしている。第7章は本論文のまとめであり、研究結果とともに、今後の課題として「順接型」が使用されるところに「逆接型」、あるいはその逆等、他の誤用の規則性について研究する必要性が述べられている。 本論文は、中国語を母語とする日本語学習者における「添加型の接続詞」の誤用実態についてコーパスを用い詳細に分析し、誤用の規則性を導き出していることが高く評価され、その研究内容は			

博士の学位取得水準を凌駕していると判断された。本論文の主要な内容は、査読付学術論文2編として公表済みである。

以上、審査の結果、審査委員会では、学位請求論文として独創性と確実性を兼ね備えており、博士(学術)の学位を授与するに値する内容の論文として合格と判定した。